就職戦線も激変。ピンチをチャンスに変えた、就職キャリア支援の底力

國學院大學

Kokugakuin University

コロナショックは、大学生の就職活動に今も大きな影響を及ぼしている。だが、この困難を乗り越え、さらに攻めの就職キャリア支援を展開しているのが國學院大學だ。同学学生事務部長の藤形正俊氏に話を伺った。

取材・文／酒井 摂

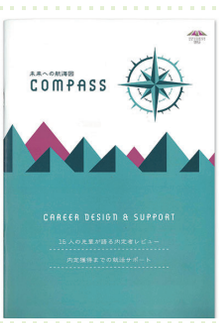
開催イベント数は減らさず、企業と学生との「接点」を重視

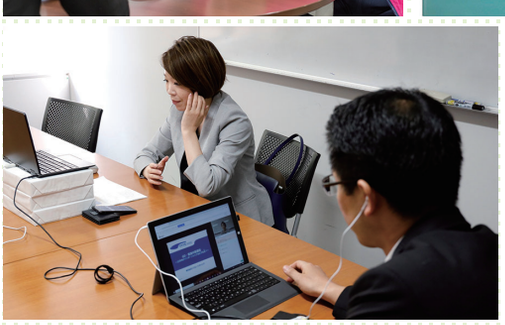
「就職キャリア支援イベントは一つも減らすことなく、予定通りすべて開催しよう。とにかく、学生に提供するサービスの質を落とさないこと」。2020年春、國學院大學の就職支援担当職員たちは、この合言葉のもと就職支援のオンライン化を急ピッチで進めた。「本学では、自主企画による就職キャリア支援イベントを毎年数多く開催しています。これらイベントは優良企業と学生との接点を作る上で重要な機会になることから、たとえコロナ禍であっても減らすという選択肢はありませんでした」と、学生事務部長・藤形正俊氏は明かす。

こうして4月以降のイベントは完全オンライン開催に切り替え、個別面談や各種講座なども素早くオンラインに移行。大学独自の就活アプリもフル活用し、学生との接触回数を増やしていった。そして結果的に2020年は、民間企業と公務員合わせてイベントを約285回開催。オンラインの手軽さから細かくカテゴライズした少数向けの企画が開催しやすくなったことで、開催回数は昨年度と比べて増加した。例えば、留学経験を就職活動に活かした内定者による対談企画など、学生とリモートで面談を重ねる中で個々のニーズを丁寧に汲み取り、その都度追加していった企画も多いという。また、就職支援講座の映像は後日、アーカイブ配信を実施し、口コミなどをきっかけに後から興味を持った学生の視聴も可能になった。

大盛況の『企業セミナー』企業とのパイプも強み

さらにオンライン化は新たな価値を生み出している。その好例が、秋に2カ月間開催する『企業セミナー』だ。これまで企業の人事採用担当者を大学に招いて大教室で行っていたものを改め、オンライン会議システム・Zoomを使用して開催した。これによりチャットを介して双方向型のコミュニケーションが可能となり、企業と学生のやり取りが一層活発化した。企業側からも好評で、オンライン開催ならばと同セミナーへの参加に意欲的な企業が増加。2020年度も大手重工業メーカーや大手総合建設企業、IT情報サービス企業など、多彩な顔ぶれの各業界のトップ企業64社の参加が実現した。





（左上）キャリアサポート課には、毎年秋になると『内定者アドバイザー』が日替わりで常駐。IT、金融、ホテル業界など人気業界を中心に内定を得た4年生約30名が、オンラインと対面の両方で学生目線のアドバイス等を行っている。
（右上）大学オリジナル編集の企業データブック『企業大研究』と内定者の生の声がつまった就活体験記『COMPASS』を毎年刊行。就活生のバイブルとなっている。
（左下）ナビサイト担当者による『オンラインガイダンス』の様子。

Interview

「働くこと」の楽しさを リアルに見せれば、学生は変わる

國學院大學
学生事務部長
藤形 正俊 氏

ほとんどの学生は、就職活動を始める前は、働くことや就職活動をネガティブに捉えがちです。ところがこれを終えてみると、「就活が楽しかった」「働くことが楽しみ」といった前向きな声が数多く聞かれるようになります。こうした学生たちの著しい変化の背景には、モチベーションの塊のような職業人との出会いや刺激的なビジネス体験など、就職活動中のリアルな体感が数多くあり、つまりそれらとの接点さえあれば彼らの後ろ向きの姿勢はポジティブに変わるのです。そこで本学の就職キャリア支援では「リアル」をキーワードに、学生のモチベーションを高める仕掛けを数多く用意しています。それが企業の担当者や本学の内定者、卒業生を通して生の声にふれることであり、加えてインターンシップへの参加が大きな気づき、発見の機会となっているのです。

また、2018年度には「国家公務員総合職」「公認会計士」という2つの難関試験突破を目指す大学独自のキャリアプログラム『K-PLAS(ケー・プラス)』が始動しました。1年次から各ステップで明確な目標を設定することで、次のステップを目指す中で高い意欲を維持し、さらに選考を通過した学生には奨学金制度もあるプログラムです。こうしてリアルな体感の場や、マインドにスイッチが入る機会を私たちが数多くアレンジし、学生が挑戦せずにはいられないムードを学内全体に浸透させていく。それが國學院大學の就職キャリア支援なのです。

Information

國學院大學

1882(明治15)年創立。大学令により1920(大正9)年に大学に昇格し、私立大学として日本で最初に認可された8大学のうちの一つ。キャンパスは二つあり、渋谷キャンパスには文学部・神道文化学部・法学部・経済学部の4学部を擁する。横浜たまプラーザキャンパスには、人間開発学部に加えて、新たに観光学部(仮称)の開設を2022年に予定している※。
※2022年4月設置予定 認可申請中

●DATA
〒150-8440　東京都渋谷区東4-10-28
TEL 03-5466-0141（入学課）
URL https://www.kokugakuin.ac.jp/admission

● 内定者のコメント（2021年3月卒業予定者）

民間企業

プリンスホテル内定※
熊谷 朱香さん
文学部 外国語文化学科 4年
（北海道旭川商業高等学校卒業）

コロナ禍を受け、当初志望していたエアライン業界からホテル業界へ変更しました。大きな不安もありましたが、キャリアサポート課の職員・講師の方々と面談を重ねる中で自信を取り戻し、目指す内定を得ることができました。

民間企業

ENEOS内定※
相場 洸太さん
経済学部 経済学科 4年
（私立東京立正高等学校卒業）

合同企業説明会やインターンシップへの参加を通じて働くことのリアルな姿にふれ、参加した数だけモチベーション向上に直結しました。これが結果的に、自分が最も満足できる形での内定獲得につながったのだと感じています。

※内定はいずれも2021年2月時点

加えてこれまで構築してきた企業とのパイプが力を発揮した。同大学では、就職支援担当の職員が一社一社訪問して調べた情報を基に、独自基準で絞った優良企業約240社を紹介するデータブックを2015年から毎年発行している。この制作のため、5年にわたり職員が年に2度各社を訪ねる中で強化してきた企業との接点が、まさにコロナ禍で活きたのである。「一部の業界は暫く厳しいものの、多くの企業は依然として高い採用意欲があります。そこで就職戦線に不透明さがある中にあっても、各社との豊富なコミュニケーションの蓄積から最新情報を掴んでいる私たち職員が、適切な支援ができる万全の体制を整えています」

変わらぬリアリティ重視 早期化を見据えたサポートも

一方で変わらぬ姿勢もある。それが、企業やそこで働く人のリアルな姿にふれるインターンシップへの参加促進だ。キャリアサポート課では1人あたり20社以上のインターンシップへの参加を今も積極的に呼びかけている。「就職活動がネガティブからポジティブに変わる瞬間は、目標ができた瞬間です。その気づき、発見の場こそインターンシップであり、数多く参加した学生の方が自ら望む企業に辿り着く可能性が圧倒的に高まります。これはコロナ禍でも変わらない一つの基本です。逆にオンラインでのインターンシップであることから参加へのハードルは以前よりも低くなり、より多く参加できる環境になったといえるでしょう」

また、毎年高い人気を博して来た金融企業の支店見学会や食品商社の流通倉庫見学会、建設現場の見学会など、リアルな現場にふれる企画も規模は縮小しつつ引き続き開催していく。今後は就職活動の早期化を見据え、1、2年次に向けたサポートも拡充する予定だという。こうして未曽有の危機をもチャンスへと変えていく。そんな就職キャリア支援の本当の強さが、ここにある。